



五稜郭タワー1F アトリウム  
前期 2025.6/21 (土) - 23 (月)  
後期 2025.6/25 (水) - 27 (金)

# 美術ぷらす展 in 函館 2025

実施報告書

# 1 開催地 函館

本展の開催地となった函館は、幕末に開港した日本有数の国際貿易港であり、和洋の文化が交差する独自の景観を持つ街です。特に、港を見下ろす坂道に教会や洋館が立ち並ぶ元町エリアは「屋根のない美術館」とも評され、その異国情緒あふれる風景は、石川啄木をはじめ多くの芸術家に創作のインスピレーションを与えてきました。会場となった五稜郭タワーが位置する特別史跡五稜郭跡もまた、大地に描かれた壮大なアートと捉えることができます。

開催初日の朝には函館の初夏特有の霧が星形の城郭を包み込み、幻想的な風景を現出させました。歴史と異文化、そして雄大な自然が織り成すこの街の芸術的な土壌は、「自然への感謝」という本展のテーマを表現する上で、最もふさわしい舞台であったと言えます。

## 2 開催レポート

### 展覧会のテーマと展示内容

2025年6月21日から27日にかけて、「美術ぷらす展 in 函館 2025」を五稜郭タワー 1F アトリウムにて開催いたしました。2017年以来の函館開催となった本展は、通算6回目を迎えます。前回の「平和祈願」「国際交流」というテーマから一新し、今回は「自然への感謝」「自然の恵みへの感謝」をテーマとして掲げました。開催時期に、世界各地の記録的猛暑や日本国内での米価高騰などが報じられる社会情勢と重なったこともあり、奇しくも時宜を得たテーマ設定となりました。

会場には、油彩画、水彩画といった絵画から、書道、工芸作品まで、出展した創作者がそれぞれの解釈でテーマにアプローチした作品群が一堂に会しました。前回以上にジャンルや表現方法の多様性が際立ち、来場者の知的好奇心を刺激する、心躍る展示空間でした。

### 会場の様子と来場者層

会場となった五稜郭タワーは、前年に展望台の入場者数が過去最高の120万人を突破した、函館を代表する観光名所です。天井が高く自然光が差し込む開放的な1階アトリウムに設けられた会場は、まさにタワーの玄関口。折しも函館が最もにぎわう観光シーズンと会期が重なったことで、展望台を目指す観光客やツアー客が絶えず行き交い、その多くが自然と作品を目にするロケーションでした。国内外から訪れた観光客が足を止め、思いがけず出会ったアートに熱心に見入る姿があちらこちらで見られ、普段アートに馴染みのない方々にも、そのおもしろさを知っていただく素晴らしいきっかけになったのではないのでしょうか。何より、多種多様な作品の数々に感心するだけでなく、作者の思いや意図を汲み取ろうと真剣に鑑賞する方が多くいらっしゃいました。

特に印象的だったのは、修学旅行で訪れた学生たちの存在です。多い日には1日に10校を超える学校が来場し、会場は若者たちのエネルギーに満ちあふれていました。小学生は主に北海道内や青森県から、中学生以上になると秋田県、静岡県、岡山県、愛媛県など、全国各地からの来訪でした。彼らは旅の高揚感と共に熱心に作品を鑑賞し、なかには来場した出展者に「どうしたらこんなに上手に作れるのですか?」と熱心に質問したり、作品の塗り絵と一緒に楽しんだりして、積極的に交流を図る姿も見られました。

6月23日には函館新聞で本展が紹介されたこともあり、記事を片手に会場を探してくださる方や、「新聞を見て来ました」と声をかけてくださる方、差し入れまでしてくださる方もいらっしゃり、地域社会からの温かい関心と期待を肌で感じることができました。このように、函館のランドマークが持つ発信力と、地元の方々による後押しが大きな力となり、無事会期を全うすることができました。

### アートと地域が繋がる参加型企画の実施

本展では、アートをより身近に感じていただくための参加型企画も実施いたしました。函館市に隣接する七飯町のワイナリー「はこだてわいん」様のご協力のもと、アートと詩歌作品をラベルデザインに起用した「北海道七飯ワイナリーから届いたりんごジュース」の展示と試飲会を行いました。アート鑑賞と味覚体験の融合は多くの来場者に喜ばれ、「このジュースはどこで手に入るのか」という質問が殺到し、その場で商品をインターネット注文される方もいらっしゃいました。（※本展に展示したラベルの商品はイベント限定なので販売されておりません。ご注意ください）

また、地元の函館市立高丘小学校の児童の皆さまにご協力いただき、校外学習で描いた海の絵を展示しました。子どもたちの純粋な感性で描かれた海の絵に、来場者は皆一様に目を細めていました。なかには、海に捨てられたゴミを描き、環境問題に警鐘を鳴らす作品もあり、出展者の作品とも共鳴する形で、世代を越えて自然環境について考える力強いメッセージにもなりました。

さらに、今回試験的に設けた「お絵かきコーナー」では、展示作品に触発された子どもたちが思い思いの画材を手に取り、素敵な絵を描いてくれました。描いた絵を掲示していく子も、持って帰る子も充実した顔をして会場をあとにしていました。ある来場した出展者が描いたシマエナガの絵は、多くの子どもたちが真似して掲示していくという、ほほ笑ましい光景も見られ、アートを通じた自発的なコミュニケーションが生まれる貴重な機会となりました。



## 3 開催概要

### 美術ぶらす展 in 函館 2025

会 期	前期 2025年6月21日(土)～23日(月) 後期 2025年6月25日(水)～27日(金)
開催時間	9:00～18:00(27日は15:00まで)
会 場	五稜郭タワー 1Fアトリウム
展 示	下記参照
入 場 料	無料
主 催	美術ぶらす展 in 函館実行委員会
企画運営	株式会社国民みらい出版
後 援	函館市、函館市教育委員会、函館新聞社、HBC 函館放送局、HTB 北海道テレビ【順不同】
協 力	函館市立高丘小学校
広報活動	マスコミ各社にプレスリリースを配布



## 4 展示構成

### 絵画および平面作品

油彩画、アクリル画、水彩画、パステル画、水墨画、色鉛筆画、デジタルイラスト、AIアート、ヒーリングアート、メッセージアート、曼荼羅アート、アルコールインクアート、コラージュアート、シルクペインティング、ボタニーペインティング、写真、書道、墨アート、筆文字アート、絵手紙、拓本

### 立体および工芸作品

トールペイント、モダン・うるし・アート、ウッドバーニング、江戸型彫、染色、刺繍、つまみ細工、羊毛フェルト、貼り絵、和紙ちぎり絵、ペーパークラフト、立体華曼荼羅アート、おりがみアート、レジンアート、ストリングアート、フレームアート、カービング、押し花、フラワーアレンジメント、アーティフィシャルフラワー

### 「北海道七飯ワイナリーから届いたりんごジュース」オリジナルアートラベル

パステル画、筆文字アート、トールペイント、モダン・うるし・アート、つまみ細工、羊毛フェルト、籐工芸、和紙ちぎり絵、フラワーアレンジメント、アーティフィシャルフラワー、いけばな、俳句、短歌、現代詩、ノンフィクション文学、哲学

### ●その他の展示物

- ①函館市立高丘小学校の子どもたちの絵
- ②お絵かきコーナーで絵を描いてくれた人たちの絵

## 5 最後に

「美術ぶらす展 in 函館 2025」は、盛況のうちに閉幕いたしました。「自然への感謝」というテーマのもと、ジャンルを越えた多彩な作品が揃い、函館の地で新たな表現の可能性を示すことができました。出展者の皆さまと来場者との温かな対話や、地域の皆さまと連携した参加型企画、そして未来を担う子どもたちの作品展示を通じ、本展がアートを介して新たな交流の輪を生む有意義な機会となったことを実感しております。

この成功は、素晴らしい作品をご出展くださった創作者の皆さま、並びに開催にあたり多大なるご協力を賜りました後援・協力団体と高丘小学校の皆さま、そしてご来場いただいた全ての方々のお力添えの賜物です。この場を借りて、関係者各位に心より厚く御礼申し上げます。また、皆さま方の今後のご発展を心よりお祈り申し上げます。







